（六日夕刊）
磐城新聞

休刊 大祭第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢
廣告料 一行五十錢指定廿錢增
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所 磐城新聞社 電話五六四番

新聞紙の教育的價値に就て

齋藤昌武

「教育」と云ふこと－それはたそらく人間が社會的生活をなす動物として他のどんな動物よりも異つてゐる點でありませう、若しも教育と云ふことを人間社會からとり去つたならその社會はさびしい、荒々しいところとなつてもはや社會など云ふ言葉すら用へられぬ程それほど下等な集合体となつてしまへませう。こんなことを考へても「教育」と云ふことが、人のすむ社會の上に重要な部分をしめてゐると云へ得ます。勿論その手近な方法として學校がある。其の他

○學校と新聞紙

種々な社會的教育機關がありませうけれど、その中で書も一般的で最も民衆的なものは新聞紙であると云へませう。朝刊として夕刊として幾多の紙の泳水が何等の差別も無く社會の全面に流し出される時その教化的價値も非常に甚大である今新聞の教育的價値を論ずる前提として學校を考へてみませう「學校」と云ふ教育機關には色々な限度がある、第一その收容數に於て次に男女と云ふ性について、やかましい區別が課されてゐる同時に經濟的にもある制限があるでせう

○新聞社の設備と教材

けれどこれに反し新聞紙の教育的價値、進んでは社會感化力として新聞紙に付いて論ずる時、勿論色々な缺點もあらうけれど「學校」と云ふ組織が有する樣な數とか性とか云ふ制限ない新聞紙はあらゆる一般社會に對しほゞ共通的な感化力、インフルエンスを而も敏速に與へることが出來る進んで教材としての新ぶん紙を見る時に新聞社の組織は常に著しいもの、市塢し目、決するから耳る設備、機關はそれを見る讀者に對し教育的暗示を與へるであらう

○教師の好參考書

「電送寫眞は何時たれが作つた」？紙と云ふものは何時出來たらう？こう論究する時にその設備のすべては教師が生徒に對する時の樣な有益な學問の材料となり得るではないか。もしもこうした點を日常の紙面に付いて教材の一部とする時新聞紙も現代の教育參考書となつたわけである、勝田文相が全國師範學校に近く新聞科を設置せんとした意向も少くなく現代新聞紙の教育的威力を通感した裏面を物語るものでありませう、更にその廣告面を論ずる時それは人間の

○習慣もすぐ變る

習慣までも一變する不思議さを持つてゐます。こんど○○新聞の廣告に○○大學俗衣が出た」……一つ買つてみよう、甲も乙も單なる紙面の廣告から今まではラッパ式の長いモダン服を好んだ若い學生が今度考案された、大學俗衣とか「一種のなつかしさを感じ作つて着るものも少くあるまいこゝに學生の一部が新聞の廣告によつて一變せられた……と云ふわけで彼等の習慣も速時ニウスペーパーの感力に依つてとりかへられる不思議な力がある。新聞紙はこうした硬る意味の價値と、みでもない現代に於くはなく緊縮な捧給生活者のなくてならぬ慰安物となつてゐる以上が新聞紙の教育的威力の單評である。

明日の吉凶

五月 舊曆 一日　六月 新曆 七日

▲一白 まさかりも研けば針となる何事も辛抱が第一 ▲二黑 平和なる割に存外事の運ばざる日あせるな ▲三碧 突飛な事に手を出して大失敗し易き注意日 ▲四綠 午前は大丈夫なれど午後は萬事手控すべし ▲五黃 我意に募りて成る事に近き事を破ることあり ▲六白 道は遠くも荷は重くも努むれば必ず達す ▲七赤 悅びあり氣緩みせぬやう注意して働くべし ▲八白 秘事外に漏れて不利を招く和合が專一の日 ▲九紫 初めは吉終りは凶遠くにゆけば戻りに災あるべし

小說 死を超ゆる者 (4)

三上於菟吉作　布施平八郎畫

小公園の逆曳（四）

「濟みません……」

「濟むも、濟まぬも、君と僕の間じやあないか……」

若い二人悩むことも早いかはりに慰められることも早かつた

青年は窮餘の一策として漠然外家へ嫁いでゐる柔しい姉に助力を仰ぐことを思ひ付きましたものゝ女手でそれだけの大金がまとまるかまとまらないかはハッキリと見當をつけかねたが、しかし大ていどうにかして呉れるであらうといふ坊ちやんらしい考へから自分で自分の思ひ付きに頼つてしまふじ娘はまた娘で相手の事情を深く考へて見るひまもなく、戀人の男らしい聲音にまづ元氣づけられてしまつた

ふと、遠くの空でゴーッと冷たい響が立つたと思ふと、一度止んだ風がまた吹き出して、樫の枯葉がどこからか降つて來た

娘は空を見上げた、もうすつかり夜で暗い空からは今にも雪が落ちて來さうであつた。

「たやゞとみ子さんは震へてゐるね」と青年は言つた

「ね、安心したら急に寒くなりましたわ」

「そんなら一しようにこれを着よう」

大學生は黑マントオを着たまゝでひろげてとき子のからだをも包んでしまつた、巾廣い肩のそばに細い柔しい肩があつた。

このときとき子は急に今度は体中が熱くなつたやうに頬を眞赤に染めた

「温かいだらう──？」

「え、でも誰かゞ見たら笑ひますわ」

「笑つたつて善いぢやあないか、兄さんと妹とがひとつのマントオへ包まつて無邪氣に遊んでゐるのだ」

「兄さんなんて勿体ない、若樣」

「たゞ止し、若樣なんか言つてはいけないといつても言ふぢやあないか！ね馬つて云へ、勇つておつしやい」

「でも──」

「でもしやあない、さあ、勇つて呼んでみたまへ」

「じやあ……勇さま……」

「何御用？とき子さん」

「あのねえ」

「ねゝ」

「あの、先刻おづしやつたでせう、あなたの方にはいゝお話があるんだつて──」

「さう〳〵」と勇と名乘る青年は叫んだ

「君からあんまり悲しい話を聽いたので、此方の樂い計劃を忘れてゐたつけ、とき子さん、君はいつか言つてたねえ──たつた一日でもゆつくり二人丈けで暮したいつて……」

「ねづしようつちう申しましため」

「學校も休みになつたし、新年になつたら君もた父さんから一日位いひまを貰へるだらうから二人で何處へか遊びに行かうと思つてね」

「まあうれしいこと──」

「何處にしようかと考へてるのさ、もし君のお父さんが一泊を許してくれゝば箱根へ行くんだけど……」

「一泊なんてとても許してくれますまいが、でも、もしあの方がうまく行けばあなたは父の命の親ですもの」

「ほんとうにあの方がうまく行けばお父さんにもよろこんで貰へるが……その積りで僕大に働くよ、ねえ」

「濟みませんわねえ、私は若樣に默つてゐようと思つたんですけどつい御心配をかけるやうなことを言つてしまつて……ほんとうに濟みません、若樣……」

廣告

◎夏衣陳列
粋な中形
着尺モスリン
名仙 單帶
其の他色々
どうぞ御來店を
三丁目 鶴田屋 電五五

吉田眼科醫院

廣告
シボレー 一九二七年式
中古 乘用自動車一臺
極く低廉に是非讓り渡したし希望の方は來談下されたく御相談に應じます
湯本町表町（山形屋旅館前）
赤津八太郎

新築落成
耳、鼻、咽喉科（專門）
氣管食道科
平町南町（舊診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

內科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
皮膚科、梅毒、淋疾病 市原三三男
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時）電話一一四番

△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五 中瓶三五 大瓶五〇
大販賣店 平町五丁目角 山野邊藥局

營業種は 石炭 コークス 玉炭
磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭 一、正味十貫目入 壹俵 金 六十五錢
◎日本デ一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス 一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御德用ナ㋡ノ玉炭 一、玉炭 大箱壹箱 金貳圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前 ㋡阿部石炭商店 電話二三七番

ナツフク
小學生 一年生 八十錢 二年生 九十錢 三年生 一圓 四年生 一圓十錢 五年生 一圓貳十錢
中學生 一年生 貳圓四十錢 二年生 貳圓五十錢 三年生 貳圓六十五錢 四年生 貳圓七十五錢 五年生 貳圓八十五錢
平町四丁目停車場通
正札堂

釀造元 吉清水屋
清世界 銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町 小野晋平 電話六番

X光線科 外科專門
入院隨意（自炊の便あり）
平南町
上田外科醫院
電話一二九

政友三、民政二に流れる 平町新町會の分派別

野崎、萩原兩氏の露骨な暗闘 新町會興味の中心

平町新町會の勢力を政黨的に大別すれば政友十八、民政十二の差を生じ事實上絶對の支配權は依然として政友派に掌握されてゐる事は既報の如くである而して之れ等を更らに分類すれば政友系三派、民政系二派の五つに分れるもの丶如くである即ち

△政友系

(純政友)井上茂作、關內正一、佐々木龍若、千葉彦治、高橋龜松、國府田直良、坂本隆藏、石山治三郎 (以上八名)

(政友系中立)猪狩庄平、緑川喜三郎、根本品藏、鈴木光吉、馬目武之助 (以上五名)

(準政友中立)青沼鉾太郎、大森勇、花澤兎五六、荒川恒次郎、齋藤敏賢 (以上五名)

以上は各議員個々の立場を種々の關係から止むを得ざるものと觀られてゐるが之れは單純な個人關係の結び合ひにして結局は政友派と同一行動に出づるは勿論のことである、然して一方民政系を見ると野崎滿藏、萩原義雄兩氏の日頃の良心と思想的不一致が茲に稍々明瞭となり表面至つて平和を裝ふ民政黨も其の實際に至つては左の如き二派に分派されてゐる

△民政系

(野崎派)吉田五平、馬目雅治、佐藤岩次郎、吉田寅之助、永山富廣 (以上六名)

(萩原派)吉村安次郎、柳下元吉、武田元之助、櫻井清、荒川淺次郎 (以上六名)

等にして兩派相伯仲の勢力であるが荒川淺次郎氏は最近民政黨の一部幹部に對し快とせざるものあり或は斷然絶縁して政友系に走らんとする傾きいあるもの丶如くである、而して野崎、萩原兩氏の反目呪視は日を經るに伴れて益々深刻化し野崎氏は民一派の毒舌を振つて萩原氏の人身攻撃をなし暗に氏の信望と勢力を殺がん事にのみ努めてゐる一方萩原氏は流石に思想、人格ともに紳士的態度を以て事に臨む其の與黎なる言動は期せずして野崎氏の勢力を凌駕するに足るものあり今後兩氏の暗闘は益々露骨ならんとするもの丶如く新町會興味の中心となつてゐる

國府田氏祝賀

平町會議員國府田直良氏の當選を祝賀すべく銀治町區主催の祝賀會は六日午後四時より同町淺井氏宅に於て開會出席百餘名で盛會

早きは上簇に入り 蠶況案外に良好

水害の祟りも存外輕く 農民愁眉を開く

石城郡地方に於ける過般の大暴風雨被害に就ては警察署、役場、平土木監督所、石城郡農會、神谷農事試驗場その他關係當局が被害實狀の調査を急ぐと共に此の應急對策に努めてゐるが土木關係の被害と農村の被害が最も甚だしく殊に田植期と春蠶の上簇期を目前に控えてゐるだけに農村の被害は想像以上のものがあるので郡農會當局では直に全郡下町村農會の技術員を召集對策協議の上直播き法を獎勵して苗不足を緩和する事になつた事は既報の如くだが其後の天候が頗る順調であるため苗代被害は豫想より幾分少くなる模様で當局でも喜んでゐる更に最重要期にある郡下の蠶況は桑園被害が甚だしかつたので約五割の違蠶を見るのでないかに豫想されてゐたので養蠶同業組合は勿論當業者の憂慮は一方でなく郡南植田方面の當業者は隣接茨城方面の桑荒を買入た者も多いが桑不足と反比例して蠶況は至極順調で平窪赤井等の早蠶地は早くも上簇に入つたものもある程で桑荒の被害最も甚だしかつた郡南方部を除いては大體一割內外程の違蠶で豫想程の被害は見ないらしいと言はれてゐる

高級蠶飼育

上遠野村で良績

石城郡入遠野村養蠶高級育は地方は疑問の眼にて見られてゐるが昨春以來好成績にて三十戶を數へ成績頗る良好にて曾ては西ヶ原蠶業校を卒業し養蠶教師として勤務せる樋口村長等は手數の省略その他の點について自ら十枚も飼育し一般に普及したいと語つてゐる

石城郡下の水害で 免租申請二百町

近く實地調査の上で 所得稅の最高 諸橋氏一人

石城郡內に於て去る五月廿三日の水害により荒地免租を出願した者は四倉、大野、玉川、平窪、內郷、湯本、上遠野、勿來、好間の九ヶ町村に及びこの面積は田千七百四十筆、畑四百十一筆原野三筆の百餘町歩に達したがこのほか平町を初め小名濱、泉、江名等にも被害多く全部出願すれば二百町歩を突破すべく見込まれてゐる、これに對し平稅務署では十五日頃から實地檢查に着手し來月中に免租や減稅程を決定する方針であるがなほ同署に於ける今年の所得稅納稅人員は千八百九十人でこの內最多額、五千圓以上は平町五丁目諸橋久太郎氏たゞ一人で五十圓未滿は大部分を占めてゐる營業收益稅は千四人で千圓以上はわづか一人これも大部分は五十圓以上である

上遠野村議

四日當選左の如し

上遠野村會議員選擧は四日執行の結果左の如く當選した

當選七二票加藤庄松(民)六四同永瀨幸太郎(同)五九同蛭田安平(政)五四同蛭田寅次郎(民)五四同小澤貞久(政)五四同吉野金次郎(民)五二同鈴木孝之吉(同)五二鈴木辰藏(政)五〇同大野元(民)五〇同蛭田敬一郎(政)四八同山野竹松(同)四五同高木宇太郎(同)

禁獵區請願

赤井嶽一帶を

石城郡赤井嶽藥師堂は國光明媚の地として風地保存上禁獵區に設定されたいとかねて請願中であつたが今回金華山から鹿四頭をゆづり受け飼育してゐるので保證繁殖の目的から是非前記の設定をされたいと同郡選出縣議若松美三氏が三日縣保安課に陳情した

內郷に選擧違反

平署活動開始

內郷村々會議員選擧は來る八日執行されるが定員三十名に對し三十三名の立候補者が互に猛烈なる競爭をつけ日時の接迫と共に運動は益々熾烈を極めて來たが候補者某氏の運動員に買收その他の違反事件が發覺したもの丶如く平署は高等課總動員にして內偵中である

靴専門の賊

十七件を自白

平町平商業學校昇降口下駄箱に入れて置く生徒の靴が先月から瀕々としてなくなるので平署では何者かゞ侵入して持つて行くものであると警戒中四日午後一時頃一人の少年が忍び入り靴を抱へて出て來たのを平署森刑事が引捉へ取調べて見ると此奴は宮城縣名取郡荒濱村字米田生當時住所不定武田清十郎(假名一八)と稱し先月十五日平町に入込み各所を荒したもので其の十六件の竊盜を自白した

郡養蠶同業で 注意書配布

蠶況存外良好

石城郡地方に於ける目下の蠶況は四眠から五齡に近付いてゐるが給桑狀態は水害のため桑の發育思はしくなく不足を告げてゐる所もあり、春蠶の上簇は八、九日頃から小川村方面にボツ〜始る筈であるが繭の出廻りは十四日頃が皮切りらしくどうしても出盛りは二十日前後と豫想されてゐるが猶之が繭の品質改良に就ては石城養蠶同業組合で每年夏秋春蠶時に改良法を宣傳普及に努めてゐる

惡性の若僧

平署に捕はる

石城郡箕輪村大字高野石畑生れ高萩喜久次(假名一九)は手癖が惡く數十回起訴猶豫の處分を受けてゐたものであるが先月三十日午後十二時頃內郷村大字高の友人の所に遊びに來て同字の料理店石川亭方の裏口より這入り座敷にあつた銀臺より銀側懷中時計一個五圓を竊取し自宅に持返り隱匿してゐたのを平署猪狩刑事に發見され嚴重取調たところ十數件の竊盜を自白した

小名 公設質屋

町會で設置を決議

石城郡小名濱町では中產階級以下細民救濟のために二萬二千圓の低利資金を借受け同町中島公有地に町の共設質屋を設置することに今回町會にたいて議決した開業の曉は庶民金庫とも目されてゐる今日一般から非常な期待を受けてゐる

蓮沼氏上京

本社副社長蓮沼龍輔氏は六日午前三時平發上り急行にて上京三四日滯京の上歸社の豫定

◁◁◁◁◁ 時の記念日

平町各種の催し

定時勵行の上から十日は「時の記念日」に當り如何に一般の人々に對し普く深く時の觀念を印象せしめるがため平町役場の種々な催しについては既報の如く定刻の正午には各神社、寺院鐘樓、火の見櫓にたいて鐘鼓を打鳴らし平機關庫にたいては汽笛を吹鳴らすことなし全町各戶時計をこれに台せて正確な時の勵行の旨趣を徹底せしむるため六日一般に通知を發した

慈雨に蘇る

苗代も大丈夫

石城郡地方は二十三日の大洪水以來天候は持直し晴天續きで各村の農作物はこゝの所水不足を告げてゐたが漸く十五日目で慈雨の如き雨が降りはじめたので農家は何れも大喜びである殊に水害のため通水路が欠壞された愛谷江筋流域の苗代は水を汲み入れて辛じて灌漑してゐたのでホッと一息ついてゐる

電話交換の話

平郵便局

市內電話の交換を爲す交換機は現在左の四種でありますが、平局で使用してゐるのはそのうちで一番簡式な「單式」と言ふ交換臺であります。

自働式、共電式

復式、單式

近く新築局舍が出來上りましたならば復式か若は共電式の交換臺を使用する事になるだらうと思ひます。若しそうなりましたら加入者はどんなに便利になるか知れませんが、それは未だ決定してゐる事ではありませんから此處には現在使用する「單式」（百回線單式交換臺と言ふのが本名です）に就いて猶は簡單に直接通話に必要なだけを述べる事に致します。

この單式交換臺は八十名の加入者と若干の中繼線としか收容出來ないものでありますこの八十名の加入者ですが實際は執務上の都合や何かで七十名乃至七十五名しか收容しない事にしてます。ですから加入者が六百五十名ある局では一臺七十名宛收容して十臺の交換臺が必要となる譯です。交換機一臺に就き電話事務員（以前は交換手と言ひました）が一名づゝ附く事になつて居ります。

交換臺は並べられた順序に〇臺、一臺、二臺、三臺と數へます。そして〇臺は〇番から七十五番（七十名しか加入者を收容しない時は七十番）で次の一臺には百番から百七十五番（前と同じ）二臺は二百番から三臺は三百番からと言ふ具合に收容されるのです。それで七十四番は〇臺に三百二十二番は三臺に七百四十八番は七臺に收容されるのであります。今二十四番から七百四十八番に用件があつて電話局を呼び出します交換手は「何番へ」と問ひますから二十四番の加入者は「七百四十八番」と答へますそれを交換手は〇臺から七臺迄手が届きません中繼線で以て七臺を呼びます其處で七臺の交換手は直接加入者へ「何番」と問ひます加入者にとつては同じことを二度聞き返すと思はれるかも知れませんが初めは〇臺の交換手後のは七臺の交換手が問ふのですから重複ではないのです。尤も偶に二度も三度も同じ事を繰り返して聞く事がありますがそれは受話機を通じる加入者の聲が判然と聞へない時であります。

次に二度も三度も聞き返さなければならぬ原因に就いて申し上げませう。それは機械の不良な場合もありますが、加入者の發音が不明瞭な場合に多いのであります。斯んな事を申せば加入者の方の御氣に障るかも知れませんが、事實そうである事をお話致しませう。

發音の不明瞭なのは第一が番號の讀み方、第二が聲の高低、第三が截音とでも申しませうか横を向いたり他の人と話したり或は笑ひながら呼ぶ場合であります。第一の番號數字の讀み方でありますが一と七、四と七、九と五等が一番間違ひ易く不明瞭に聞へるものであります。またこれに依つて交換違ひが起るのでありますそれで一、二、三、四、五、六、七、八、九と呼ぶ方法が一番判り易く間違ひないものとされて居ります。例へば七四九番を呼ぶ場合シチヒャクシジウクと呼ばずナナヒャクヨンジウキウと呼ぶ樣なであります。第二の低音は近くに居る人に自分のよぶ番號が聞かれない樣にと言ふ心づかいでせうがあまり低いので判然と致しません又あまりに高くとも判然聞へないのであります第三は最も慎んで貰はなければなりません

以上よぶ聲の不明瞭と聞き違ひに依つて交換違ひの故を起す原因になるものでありますからそれを防ぐ方法として交換手は同じ番號を二度も三度も聞き直す事になるのであります

減つて行く求人

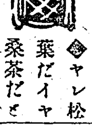
就職は益々困難に 五月の平紹介所

平職業紹介所の五月中の事務取扱は求人(男)二十七人(女)六、求職(男)三十五人(女)七人就職(男)十五人(女)二人で來月に比しグツと求人職共減つてゐるこれを前月と比較して見ると求人は二十二人と云ふ激減で求職は六名の增加を見たが就職はこれまた二十一人の減である猶昨年の同月より見れば求人か十六人の減で就職か十五人の各々減を示してゐる之は各農家が農繁季に這入つたゝめ失職者も農家に稼ぐためであるが最近求人數のメツキリ減つた事は深刻となつた不景氣を如實に物語つてゐる

出生死亡

二百人の增加 平町役場の

平町役場戶籍係に現れた一月から五月まで生れた赤ん坊の數は驚く勿れ四百十六人を突破し死亡の數も二百十九人を數へてゐるが結局二百人の增加である而して五月中の人事は婚姻十六組離婚三件、出生五十三人、死亡四十二人、相續四、轉籍五、分家七、廢家一、轉籍二、養子緣組四組で吏員も大多忙を極めた



◈ヤレ松葉だイヤ桑茶だぞ若返り藥が流行つてるうちに、此頃はイカリ草といふのが馬鹿に信者があるとの事だ全體イカリ草といふからどこか船の錨に似てるのかと見ると葉にも莖にも根にもソンナ點はない、そこで字引をひいて見るとあつた〜新辭海に淫羊草（イカリソウ、〇らたけり草）とちやんと書いてある。して見るとイカリ草は性器の怒り草なのだ。老人共の喜ぶのも無理はない◈だが軀全體が若返つて強くなるのなら結構な話だが身體が弱つて一局部だけが丈夫なのは變な人間が出來上るだらう。

平町田町 **高久病院** 電話五一三番

平町田町 **赤心堂病院** 電話四七五番

開店廣告

今回隣家ヨリ失火ノ際ハ御蔭ヲ以テ店舖及倉庫ヲ全燒セシノミニテ幸ヒ工場及事務所ノ類燒ヲ免レマシタコトハ皆樣ノ賜ト深ク御禮申上ゲマス猶ホ營業所ハ店舖新築落成マデ約一ヶ月間製材工場事務所ニテ七日ヨリ開店致シマスカラ從來通リ御引立下サレ御用命ノ程御願申マス

六月六日

平町才槌小路一六 **色川材木店** 電話三四一番

新人の意氣天を衝き全篇に溢る熱と力の名作◇七日ヨリ上映プログラム

松竹提供 市川右太エ門主演 原作…鈴木史郎 監督…長尾史錄 宿命史 **三下野郞** 全

盃を受けた親分の爲に善も惡もなく死命を賭して盡してゆく血涙に彩られた悲壯なる三下奴の物語りではある

都新聞連載 □松竹蒲田大作 原作…畑耕一 監督…野村芳亭 名作 **棘の樂園** 全

岩田祐吉、栗島すみ子、川田芳子、奈良眞養、八雲恵美子、藤野秀夫 共演

嘗て雜誌キングに連載さるゝや果然人氣の中心となりて帝都の紙價を高からしめたる此名作適材適所を得て逐に映畫化さる

劍聖 **塚原小太郎** 前篇九卷 澤田清、市川小文治 共演

連續全十八卷 來週後篇上映 原作脚色監督……佛生寺彌作

土日曜學生デー 料金普通 日活 松竹 **平館** 電四六六

營業種目

內地材 材木各種、羽柄材各種 建築諸材請負 礦山用坑木其他諸材請負

外材部 米松、米杉、大角製材調達 其他請負

佐藤材木店 常磐線平町新川町 電話三三五番

內臟外科 骨關節外科 整形外科 產科 婦人科 專門 **藤本順**

外科 婦人科 平町新川町 院長 木村寅次郎 **木村醫院** 電話一六四番